

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503189		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホームハートハウス南円山		
所在地	札幌市中央区南10条西23丁目2-13		
自己評価作成日	平成26年10月	評価結果市町村受理日	平成27年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中央区という中心部に位置しながらも、事業所の目の前は公園があります。子供たちの楽しく遊ぶ姿や声が聞こえ、また自然環境にも恵まれており、鳥のさえずりやかわいらしく動くリスの姿に入居者様も日々心癒されています。町内会の方ばかりではなく、隣の町内会の方とも多目的室を利用して頂く事により、交流させていただいています。先日の緊急避難時には両町内会からご心配のお電話を頂きました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0190100107-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市中央区の南西方向にある旭ヶ丘地区の閑静な住宅地に位置し、3階建てで、1階が多目的利用の会議室、2階と3階が2ユニットのグループホームである。1階の会議室は地域へ開放し、町内のカルチャー教室として活用されている。2階3階のリビングは、窓から向かいの公園の四季を眺められ、カフェテラスのような趣である。建物裏の雑木林は、キツネやリスが訪れるなど自然が感じられる。廊下は回廊式で、利用者の歩行運動に活用されている。近隣にはホームセンターやスーパーなどがあり、利便性がよい地区である。運営法人は、南区を中心とした医療法人を母体とした社会福祉法人で、多数の介護事業所を経営しており、地域での信頼も厚く、長年の経験が事業所の運営に活かされている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、笑顔で人格を尊重したケアに日々取り組んでいる。火災の避難訓練や災害対策などに地域の方の参加や協力があり、地域の一員としての地域密着型サービスの事業所として、今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、交流を深め、支え合う暮らしの中で、一日一笑」の理念を掲示し、カンファレンス前に理念を職員で唱和し確認しています。	事業所独自の理念を事業所内に掲示し、会議の前に全職員で唱和して、共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内活動には積極的に参加しております。ご入居者様も一緒に運動会見物・町内清掃・子育てサロン等に参加しております。	事業所の1階を多目的交流室として、地域に開放し、ぬりえ教室などとして活用されている。また、運動会の見学や町内の子育てサロンに参加して、母子と触れ合うなど地域での交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活のご様子を運営推進会議や消防訓練に参加して頂き、認知症の方の理解を深めて頂く事に努めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、生活の様子や事故報告をお伝えすると共に、地域の代表の方の意見を伺い、サービスの向上に活かしております。	包括センター職員や町内会役員、民生委員、家族が参加して定期的に開催し、意見や要望を聞く機会となり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換し、サービスの向上に努めています。また市担当者へ毎月の利用状況の報告を行っています。	市担当者への報告や地区の連絡会議などに参加して、行政担当への相談や他事業所との情報交換、交流など協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や勉強会に参加し、マニュアルが常に確認できる場所にあり、拘束しないケアに取り組んでいます。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、職員の内部研修や外部への研修を月1回実施している。また、接遇チェック表(3ヶ月毎)を用いて日々確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修の機会を持ち、一人一人が意識を高め虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の内部研修を行い、理解を職員で深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置やご家族へのアンケートを行い、意見要望を取り入れ反映させています。またご入居者様、ご家族様の様子から気持ちを汲み取る努力をしております。	ホーム便りを毎月発行して、利用者の生活状況を報告している。意見箱を設置したり、家族へアンケートを実施するなど、利用者・家族の意見や要望を積極的に聞きとり、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。	月1回のユニット会議や法人グループの管理者会議があり、また、自己申告書に基づく個人面談を年2回行い、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得(自己研修)時に時給アップをおこなっています。年に2回人事考課を行い、自己評価を自身の実績を基に、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた(新人・現任・計画作成者・管理者)内部研修を行うと共に、中央区でのスタッフ研修や外部での研修の情報を収集し受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区連絡会の参加を始め、法人グループホームとの勉強会、委員会、各ユニットへの実習研修を行い、互いに意識を持ってサービス向上に活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前にご本人とお会いし、ご家族様を交えてお話し、馴染みの関係を入居前に少しでも築ける様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお話しさせて頂いています。出来る限り連絡を取りお話しする事で、ご家族様の心情を伺えるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは他のサービスは利用する機会は少ないのですが、ご家族様の現状と要望を考慮し、可能な限り他のサービスも含め対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様を尊敬し一方の立場になる事なく、関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは面会時、電話連絡などで常に連絡をさせて頂き、情報交換をする事で共有の時間を大事にし、共にご本人の生活の支えになれる様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活習慣を変えない様友人の来訪や外出をご家族様に限らず、職員も一体となり、支援しています。美容室や買い物、友人・ご家族様との会食の場を継続し続けるよう努めています。	利用者が地元出身が殆どな為、家族や友人・知人の面会が多い。買い物や外食、馴染みの場所への訪問など家族と一緒に外出する機会が多く、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士が交流を持てるよう、レクレーションや外出の場を作っています。また、個々での交流の場も大事にして頂ける様環境を作り、時に職員の仲介にて、関係作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、病院へのお見舞いや関係機関を通じ、ご家族へ挨拶などさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動を観察する事でご本人の希望を聞き入れ、思いを引き出す様に努めています。	アセスメントシートを活用して、年2回のアセスメントを行い、本人の生活状況や表情、仕草、言動などを観察し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集に日々努めています。また、ご入居時にはケアマネジャーなどから過去の様子を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言動・行動から生活リズムを作って頂ける様な環境作りに努めています。また、体調や気分に合わせて家事、趣味活動をして頂く事で、アセスメントに活かしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の気持ちを聞き出し、ケアカンファレンス時にはご家族・主治医のご意見を事前に伺い、より良い計画書作成に努めています。	本人や家族の意見や要望と主治医の意見を取り入れ、課題分析シートを活用して、ユニット毎にケアカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケアプランを基に記録し、他申し送り・家族連携表の情報を職員間で共有し、必要に応じてモニタリング・評価・アセスメントを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望も含め、ご家族様の状況に合わせて受診など、職員にて対応させて頂く事もあります。またご本人ご家族様から気軽に依頼して頂ける関係づくりに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わり場として、「子育てサロン」など町内会活動には積極的に参加させて頂いています。近隣の方々と公園散歩時には気軽に挨拶を交わし、夏祭りでは近隣の子供達にも参加して頂き、関係作りに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師との密な医療連携を行う事で、ご本人・ご家族様が安心して受診を継続できる様に努めています。	入居前からのかかりつけ医は、家族が同行して受診している。月2回、提携医療機関の医師の往診があり、週1回の訪問看護もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告し、助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、医療機関に介護情報を書面、口頭で提供しています。またご本人の状態に合わせた退院に向け、医療関係相談委員・ご家族様と、相談や話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、医療連携を十分に活用し、ご本人やご家族様にとって最良のケアを行う様に努めています。終末期ケアについての内部研修は行っています。	重度化に向けた対応は、契約時に本人や家族に説明し、重度化した場合は、医療連携して、本人や家族と打合せながら最良のケアをチームで支援するよう、職員の研修を定期的に行って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での緊急対応研修を定期的に行っています。また事業者内での連携を用いた緊急対応に努めています。マニュアルも定期的を確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の実施を基に、入居者様・近隣の方々を交えた避難訓練を実施しています。	利用者や地域の方の協力で、マニュアルを整備して、年2回防災訓練を実施している。備蓄や発電器を整備して、地域との協力体制を築きながら災害対策に取り組んでいる。	地域の方の協力で、火災の避難訓練など行っているが、事業所の裏の一体が丘陵地の崖による危険地域の指定を受けている為、緊急時の避難体制や避難先など地域と一体となった防災対策の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしています。また接遇チェック表を実施しています。	接遇チェック表を活用して、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを確保するよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、ご本人の希望を表現できるようにお手伝いをしていますが、自己主張の強い入居者様に振り回され、全ての方の自己決定の働きかけが出来ていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちですが、入居者様のペースに合わせて過ごして頂けるように支援しています。外出に関しても、勤務時間に囚われずに柔軟に対応しています。(花火見物・コンサートなど)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き、好みのおしゃれが出来るように支援しております。また定期的にビューティーボランティアにも参加し、お洒落心を大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のふれあいから、ご本人の嗜好を聞き自主メニューの時には出すことに努めています。野菜きりや盛り付け、後片付けなどそれぞれに応じた声かけをしています。	メニューはグループの栄養士が作成しているが、週1回の自主メニューは、利用者と一緒に、買い物から下準備まで行っている。玄関前で夏祭りは、地域の方の参加もあり、楽しい行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり状態にあわせて栄養バランスや水分量を摂って頂けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きへの声掛け、準備などを行い歯磨きをして頂き、義歯の方への毎晩の消毒も行って頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るように排泄状況を把握し、個人の排泄パターンにあわせたトイレへのお誘いなどを行っています。	利用者個々の排泄パターンをインアウト表を活用してチェックし、一人ひとりの状況を確認しながら、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を常に意識しています。また日頃よりレクリエーションを通じて、体を動かす事で血行を促しています。排便状況を把握し医師とも相談し下剤調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺ったり、受診や外出にあわせて、入浴して頂く様に努めています。	入浴は、週2回以上行っており、本人の希望に合わせての入浴が可能だが、特に外出・受診前に入浴することが多いため、個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠できるように寝具を清潔にし、定期的な巡回にて、室内温度調節も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認を始め、薬の目的や副作用などについて薬剤師からの指導を受け、職員全員がその内容を把握できるように申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などをご家族様からの情報で把握し、その方にあった楽しみで気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れることを日々の目的とし、天気の良い日は前の公園の散歩をしています。また、外出行事も定期的（月1回）に行き、出かける事の楽しさを味わって頂いています。	閑静な住宅地で、事業所の向かいが公園なため、散歩や日光浴など外気に触れる機会が多い。買い物に行ったり、月1回の行事では、小樽水族館の見学や南の沢方面へのドライブ、歌手のコンサートにも出かけるなど、多彩な支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方のみではありますが、金銭を所持され、外出時などに買い物をされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ホームの電話を使用して頂いています。友人や知人との手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努め、季節に合った装飾や花を飾る事で、安らいで頂く工夫をしています。また照明には目に優しい明りを使用し、食事時間は軽音楽で雰囲気づくりをしています。	共用空間は、ユニット毎に壁の模様が異なり、洋館の様な雰囲気、季節の飾り物があり、採光や風通しも良い。リビングは大きな窓からの公園を見渡す眺望がよく、カフェテラスにいる感じで寛げ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは話しやすい方同士で座って頂いたり、ソファを利用し特定の方だけでなく自由にお話出来るようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には必ず使い慣れた物を使用して頂けるように相談しています。	居室は部屋ごとに壁の色や模様が異なり、大きな収納とロスナイを設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・バス・洗面所、居室などの場所が、絵でも理解できる工夫を行い、またご本人も体で覚えて頂ける様見守り、安全に配慮し自立した生活が出来るように支援しています。		